

# 高住宮ノ谷遺跡 たかすみみやのたにいせき

## & 高住牛輪谷遺跡 たかすみうしわだにいせき



### 湖山池周辺最古級の縄文土器発見！

高住宮ノ谷遺跡3区では、谷の肩部分から、縄文時代の土器や石器が出土しました。中でも、“押型文土器”は縄文時代早期（約8,500年前）のもので、湖山池周辺では最古級の発見となります。

一方、4区からは、古墳時代終わり頃（約1,300年前）の竪穴建物跡2棟のほか、中世の道路跡や水田跡が見つかりました。

昨年度と今年度の2ケ年に渡る調査成果によって、高住地域の土地利用の様相や変遷がわかってきました。



湖山池周辺最古級の“押型文土器”  
(縄文時代早期 / 約8,500年前)



フレイバック2015



溝から出土した団扇形木製品  
(古墳時代終わり頃 / 約1,300年前)

### 古墳時代の造成と祭祀空間

高住牛輪谷遺跡では、弥生時代から中世までの遺構や遺物が見つかりました。中でも古墳時代には、谷を大規模に埋め立てて平坦面を造り、大型の竪穴建物跡や掘立柱建物跡を何度も建て替えていたことがわかりました。また、谷の中央を流れる溝から暗渠や石組の遺構なども見つかりました。

溝の中からは、権威の象徴である団扇形木製品に加え、刀形木製品や大量のモモの種など祭祀に関わる遺物が多数見つかったことから、集落内で祭祀が行われていたと考えられます。

**発掘通信**

当財団が担当した鳥取西道路関連の現地での発掘調査が、本年度をもってすべて終了しました。平成21年度から皆さまにお届けしてきたこの便りも、今回で最後となります。

長い間、ご愛読いただき本当にありがとうございました。

鳥取県教育文化財団 調査室

#### (公財) 鳥取県教育文化財団 調査室

〒680-1133 鳥取市源太 12 番地

TEL: 0857-51-7553 FAX: 0857-51-7550

メールアドレス: tottori-kyobun@kyobun.sakuratan.com

HP: [http://kyo-bun.sakura.ne.jp/chosasitsu\\_new.htm](http://kyo-bun.sakura.ne.jp/chosasitsu_new.htm)



# 鳥取西道路の遺跡を掘る!

第83(最終)号 2016年3月23日

鳥取県教育文化財団が平成21年度から行ってきた、鳥取西道路関連の現地での発掘調査が、平成27年度をもって、すべて終了することになりました。

今号では、これまでの発掘調査を振り返ってみたいと思います。

① 大柵遺跡 (鳥取市大柵地内)	④ 松原田中遺跡 (鳥取市松原地内)
② 高住牛輪谷遺跡 (鳥取市高住地内)	⑤ 下坂本清合遺跡 (鳥取市気高町下坂本地内)
③ 高住宮ノ谷遺跡 (鳥取市高住地内)	

## これまでの発掘調査を振り返って

鳥取県教育文化財団が行ってきた鳥取西道路関連の発掘調査は、計20遺跡、調査面積は計120,000㎡以上にも及びました。

鳥取西道路関係の調査は、低地での調査が中心となりましたが、県内では平野部においてこれほどまでに広大な面積を調査するのは、これまで極めて稀なことでした。調査では、縄文時代から鎌倉・室町時代におよぶ幅広い時代の、大変貴重な遺構や遺物が数多く出土し、地域の歴史を語るうえで、また、鳥取県・山陰地方の歴史を語るうえで欠くことのできない成果が得られました。

本高引ノ木遺跡や高住井手添遺跡では、縄文時代から古墳時代の水利関連の大規模な木製構造物や精巧な籠などの編物が見つかりました。松原田中遺跡では、弥生時代の玉作りの跡や銅鐸の破片、古墳時代の地中梁をもつ堅牢な建物の跡などが分かり、この遺跡が湖山池南岸域の中心的な集落であったことが分かりました。

さらに、大柵遺跡、高住井手添遺跡、高住宮ノ谷遺跡、良田平田遺跡、良田中道遺跡、常松菅田遺跡、常松大谷遺跡、下坂本清合遺跡において、古代の役所関連の遺構・遺物が数多く見つかったことは大変注目されます。密集する掘立柱建物群、墨書土器や銅印、瓦、帯金具、形代や絵馬などの多量の木製祭祀具などの遺構や遺物が見つかり、この時代を研究するうえで欠かせない資料が得られました。

また、発掘調査は、遺跡がなくなることを前提として行われる場合が多いですが、本高14号墳は山陰最古級の前方後円墳であり、特に重要な古墳であることが判明したことから、現地に保存されることになりました。

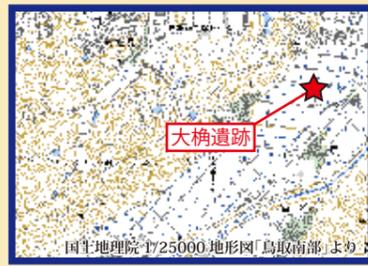
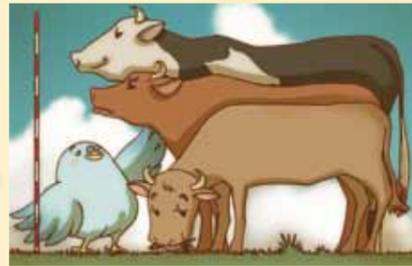
当財団が担当した鳥取西道路関係の現地での発掘調査は終了しましたが、出土遺物の調査研究は引き続き行っていきます。新たな発見がありましたら、今後も皆様にお伝えしたいと思います。

道路が完成した暁には、鳥取西道路を利用される際に、埋もれた遺跡から地域の歴史を知ることができるさまざまな資料が見つかったことも思い出していただけると幸いです。

みなさまには、発掘調査に際して御理解、御協力をいただき、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

# 大楠遺跡

だいかくいせき

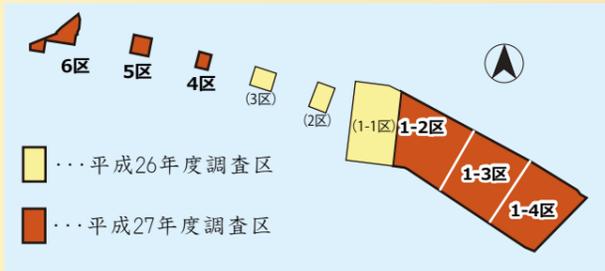
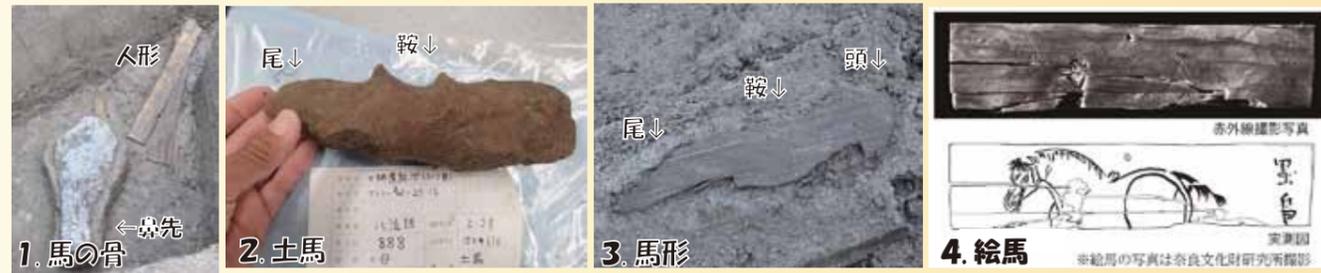


## 「馬」たち、いろいろ。

平安時代の流路から出土した、さまざまな「馬」、全4種類についてご紹介したいと思います。

一つめは、「馬」そのもの、馬の骨です。写真1は頭蓋骨で、まじないで使う人形と共に出土しました。二つめは、馬を形どった土製品で、「土馬」と呼ばれるものです。写真2は胴体部分で、背中に鞍が表現されています。三つめは、木製の板で馬を形どった「馬形」です。写真3ではかなりデフォルメされているものの、鞍の形状も見えます。四つめは、絵馬です。これまでもお伝えしてきましたが、今回の調査で、県内最古となる絵馬が出土しました。幅約25cmの板に、流麗なタッチで生き生きとした馬の姿が描かれています。

いろいろな「馬」たち。この流路からは齋串・人形等も大量に出土しており、祭祀が行われていたことがわかっています。当時の人々にとって、「馬」は、祈り・想いを託す、重要な存在だったのでしょう。



## 平安時代の鳥取和牛

昭和の名牛・気高号や、ブランド牛肉オレイン55に代表されるように、鳥取県は和牛の名産地として知られていますが、今年度の調査で出土した平安時代のウシは、どのような姿をしていたのでしょうか。

出土したそれぞれの骨の計測値から復元してみると、これらのウシが生きていた時の体高（つま先から肩までの高さ）は105～130cm程度であることが分かりました。これは、日本固有のウシとして天然記念物に指定されている見島牛（山口県萩市の離島に残るウシで、雄の体高が130cm、雌が113cm程度）に近い大きさです。ホルスタイン（乳牛としてよく知られる白黒のウシ）の雄が体高160cmになることを考えると、平安時代のウシはとても小型だったといえます。

現在の和牛は、明治時代以降に、日本固有のウシに対して、欧米の品種を導入することで改良したものです。大楠遺跡から出土したウシの骨は、和牛のもととなったウシの姿を伝える貴重なものといえます。



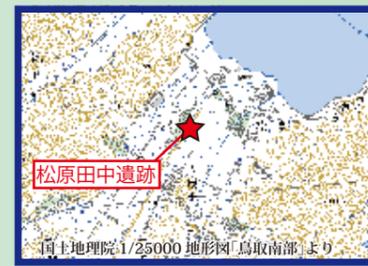
人形などとともに出土した頭蓋骨  
まじないに大きなウシの骨を選んだのかも



小型ながらオレイン酸も豊富??

# 松原田中遺跡

まつはらたなかいせき



## 4ヵ年にわたる松原田中遺跡の調査が完了しました！

今年度の調査でも、さまざまな発見がありました。中でも遺跡の北東部の様子が明らかとなったことは重要であり、これにより遺跡のおよその範囲を推定できるようになりました。

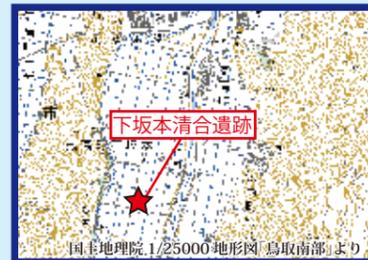
また4ヵ年にわたる調査によって、遺跡の北辺部から20棟を超える古墳時代の建物等が見つかりました。とりわけ地中梁をもつ布掘建物の構造の特異性と、10数棟という数の多さ（うち地中梁を伴うのは8棟）は、全国的に見ても珍しく、この遺跡を特徴付けるものといえるでしょう。また、4ヵ年の調査で出土した多量の遺物の中には、小型の銅鏡2面、銅鐸、銅釧といった青銅製品をはじめ、木製容器や匙、楯等のさまざまな木製品があり、当時の人々の暮らしのを知り手がかりを得ることができました。



松原田中遺跡の全景（南から）  
赤は遺跡の推定範囲 黄は調査対象地

# 下坂本清合遺跡

しもさかもとせいごういせき



## 最後まで目が離せない！

今年度は、遺跡の中央を流れる河川の南側を調査しました。小高いところには、多くの掘立柱建物やそれを取り囲む柵、井戸などが築かれ、その周りでは田んぼが営まれていたことがわかりました。建物の中には、同じ場所に何度も建て替えられたものもあり、このあたりが、平安時代の終わりごろから鎌倉時代にかけての集落の中心だったのかもしれない。

河川の中からは、たくさんの漆器をはじめ卒塔婆や舟形など、当時の人々の暮らしをしのばせるような木製品が出土しました。また、田んぼの土の中から出土した土器片には、経文が墨で書かれてあり、県内では類例がなく、当時の人々の信仰の一端を知る上でとても貴重な資料です。

さて、先月号でお知らせした井戸枠が、保存処理を終えて戻ってきました（写真）。これは、3月24日から鳥取県立博物館の「歴史の窓」コーナーで、経文が書かれた土器片とともに展示しますので、ぜひご覧下さい。



保存処理を終えた井戸枠